

続縄文文化

日本のほとんどの地域では、新石器時代である縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 500 年）の後には弥生時代（紀元前 300 年～西暦 300 年）が訪れました。弥生時代には、稲作、鉄、および青銅がユーラシア大陸から導入され、南から本州の北端まで広がりました。しかし、本州から北に 100km も離れていない北海道の人々は、狩猟採集の暮らしを続けました。交易を通して、金属器などの新技術はいくつか採用されましたが、稲作は根つきませんでした。その一因は、北海道の気候が寒すぎたことにあります。縄文時代の生活を維持していたのと同じ豊かな天然資源が、伝統的な狩猟採集の暮らしを支え続けました。この狩猟採集の暮らしが、ここで発展した文化を規定したのです。北海道のこの時代は、続縄文時代（紀元前 500 年～西暦 600 年）と呼ばれます。村々は、魚獲りや狩りや食料の採集ができる海岸に位置していました。時とともに、集落は内陸部に移動し、川を交通路・交易路として使うことになりました。